

◎今週の御言葉 「人生の転車台」(マルコの福音書12章38節～40節) 「律法学者たちには気をつけなさい。

彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりすることが大好きで、また会堂の上席や、宴会の上座が大好きです」(12:38,39) 仲森文穂

○イエス様が律法学者を批判して言います。まず彼らが着る長い衣です。長い衣は本来神様の御用をする時に着るものでした。しかし彼らは広場で尊敬されるべき律法学者だと人々に分かるように普段でも着たのです。

○次に会堂の上席や、宴会の上席を好むとあります。会堂の上席とは、聖書を納める聖ひつの前にある長椅子をさします。会衆に向かい合って置かれ、聖書の朗読者や、何らかの責任のある人や律法学者が座るのが常でした。私たち牧師もそれこそ上席に座っていますが、律法学者と違って自分の誉れを求めるためでなく、そこに座る者として、皆さんのお顔をちゃんと見るという責任を神様に対して負っていると、自覚しているのです。皆さんも礼拝では神様に心をしっかり向けて、礼拝が終わればお互いにお顔をちゃんと見て言葉を交わしておられますね。悩みがあれば牧師さんや他の方に聞いてもらい、一緒に祈ってもらいましょう。それもまた大事なことだと思います。

○次に「やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをする」とあります。やもめの家を見舞い、相談に乗ることは、律法学者にとって美德とされました。しかし法外な謝礼や援助を求めて、彼女たちの家を食いつぶす者もいたのです。

○最後は「見えを飾るために長い祈りをする」とあります。見栄を張るのは人目を意識するからです。私たちも祈る時は人目が気になりますが、しっかり神様に心に向けて祈りましょう。

○イエス様はなぜ彼らを批判するのでしょうか。羅列した点だけではないようです。律法学者、民衆に律法を守る生活を指導していました。しかし、イエス様は律法を守れる人はなく、その方法では人は誰も救われないうとして、ユダヤ教との決別を覚悟していました。もちろんイエス様は、救いの福音を用意しておられました。そして、これこそが私たちの人生の方向を変える「転車台」となったのです。